

# 第5回甲府市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 計画部会 議事録 要旨

日時：令和6年11月22日（金）15時00分～

場所：甲府市役所 本庁舎4階 本部長会議室

## 1. 開会

## 2. 部会長挨拶

## 3. 議事

(1) 「(仮称) 甲府市こども計画」(案) について (量の見込と評価指標について)

### 【事務局】

「(仮称) 甲府市こども計画」量の見込について、事務局より説明。

### 【委員】

- 見込量は利用者の増加率から算出していると認識しているが、出生率が下がっている中で出生数の減少率は加味されているか。出生数を推計したうえで、見込値を設定しているのか。

### 【事務局】

- 算定根拠について、昨年度第5次健やかいきいき甲府プランを策定した際に算出した、令和7年～令和11年の0歳の推計人口を基準にしている。
- 現時点の住民基本台帳データと同様の推移になっており、整合はとれている認識である。

### 【委員】

- 今ある施設で支援を拡充していくのではなく、施設数を増やして分散させることがきめ細やかなサービス提供につながるのではないか。
- 今後は定員の拡充ではなく、施設数を増やす方向で事業を展開してほしい。

### 【事務局】

- 施設数を増やすべき、という意見については、今後状況を見ながら検討したい。

### 【委員】

- 子育て短期支援事業について、現行計画の確保量が20であるのに対して、次期計画では1,095である理由を示してほしい。

### 【事務局】

- 現行計画の数値は実人数になっているが、次期計画は年間当たりの延べ人数を用いて確保量を整理している。

### 【委員】

- 病児・病後児保育事業について、今後こどもの数が少なくなっていくことが見込まれているにもかかわらず、量の見込みが増えている。この原因は新型コロナウイルスが蔓延した時期の数値からの変化率を用いて算出しているからと考えるが、大きく見積もりすぎではないか。
- 子育て短期支援事業や放課後児童健全育成事業において、利用したくても利用できない、定員がいっぱいであるという声があがっているため、利用者にとって十分なサービス量であるか再検討してほしい。特に放課後児童健全育成事業については、学校より放課後児童クラブで過ごす時間が長い児童が多い実態もあるため、放課後児童健全育成事業の確保量を3,000にするなど、より多くの予算を投じ、サービス拡充に向けて動いていくべきではないか。

【事務局】

- 病児・病後児保育事業については、新型コロナウイルスの蔓延時期からの変化であるものの、近年5か年の変化率を採用している。多すぎる可能性は認識しているものの、見込量としては特段の判断を含めず用いることが有用と考えている。
- 見込量を算出した結果からの数値では、子育て短期支援事業や放課後児童健全育成事業の確保量は十分であるとする。利用状況や意見を参考にしながら今後の対策を考えたい。

【委員】

- 利用したくても利用できないという人の数も加味して確保しなければいけないと考える。実情を踏まえて確保量にゆとりをもって運営したほうが良いと考える。
- 小学校高学年になると確保量が減っているが、保護者の子育てへの安心感を確保するためにも減らさない方が良いのではないかと考える。

【事務局】

- 現状、放課後児童クラブについての潜在的なニーズを把握できていない状況にあるため、今後、対策を考えていきたい。

【会長】

- 放課後児童クラブの現状について、学校など各現場から分かることがあれば教えてもらいたい。

【委員】

- 地域によって放課後児童健全育成事業へのニーズは異なる認識である。
- 4年生の確保量が3年生の確保量と比べて大きく減少している部分については、今後潜在的なニーズを調査し、現実的な数字を出したほうが良いと考える。

【委員】

- 3年生、4年生になると習い事などに意識が向くため、3年生後半から児童クラブを利用しなくなる家庭が増えてくる。
- 提示された数値はこういった実情を踏まえつつも、極端な数値であるとする。空きがあれば放課後児童クラブが利用できるという運営ではなく、利用したいときにいつでも利用できるように事業量の確保をしておくべきである。

【委員】

- 確保量を増やすのは人力的にも厳しい可能性がある。加えて放課後児童クラブは赤字になりやすく、新規参入する事業者がない。しかし、小学生の多くが放課後児童クラブに通っているため、学校に次ぐ安心できる居場所を確保していくためにも、補助金などの仕組みを含めて改善してほしい。

【事務局】

- ご指摘踏まえて、検討したい。

【委員】

- 103万円の年収の壁が撤廃され、収入の上限が引きあがると、保護者をとりまく労働環境が変わり、さらに放課後児童クラブの確保量が必要になる可能性がある。この状況で、提示された数値で事業を進めて良いのか疑義を感じる。現状の確保量は提示の数値で問題ないかもしれないが、今後の社会状況に合わせて変えていく必要があるのではないかと考えている。

【委員】

- 社会状況や法改正の都合上、5年先を見通すのは難しい。計画策定後、年度ごとに補正をかける必要があると考えるが、計画期間中に補正をかけていく流れは想定しているか。

【事務局】

- 過去に子育て関連の計画で補正をかけたものはなかったと認識しているが、他の部局で策定している計画は新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて補正をかけたことがある。本計画においても策定後は継続的に進捗管理を行うため、進捗状況を確認しながら柔軟に対応していきたい。

【委員】

- 地域子育て支援拠点事業における令和2年以降の実績値について、新型コロナウイルス感染拡大以降に制限が無くなったことで実績値が増えていった背景がある。令和7年～令和11年の5年間で量の見込みが倍近くになっているが、「こども誰でも通園制度」の開始や出生数が減少していることを加味すると、ここまで見込量の数値は高くないのではないかと考える。
- 地域で連携して情報共有や子育て支援ができていれば、地域子育て支援拠点は不要であるため、利用者数を増やすよりも満足度向上等の質を上げていく、という観点で事業を進めるのが良いのではないかと考える。
- 「ゆとりスペースのある施設の定員を拡大するなどの対応を検討していきます。」と記載されている部分については、遊び場を提供するという意味合いであると理解したが、記載した経緯を伺いたい。

【委員】

- 地域子育て支援センターは建物の面積から定員を算出する中で、少なめに定員を設定している場合もあるため、既存の施設であっても空きスペースは確保できるのではないかとと思われる。
- 地域子育て支援センター間での話し合いの場において、質の向上は話題にあがった。
- 居場所をつくるという目的であれば、地域子育て支援拠点を増やす以外にも幼稚園の園庭開放などの方法があると考えている。

【事務局】

- 地域子育て支援拠点事業の見込量について、想定される状況はあるものの、確定することができない条件での計算は控えた。理由として、出生数は今後も減少していくことが想定されるものの、どの段階で利用率が頭打ちとなるかの想定は困難である。また、意図的に抑え込んだ見込量では、実際のニーズに対応できなくなる場合がある。
- 地域子育て支援センターのスペースに係る記載については、スペースに余裕があるため受け入れ可能である旨を伺ったため、記載した次第である。詳細については今後調整が必要と認識している。

【委員】

- 幼稚園や認定こども園等、地域で様々な子育て支援を実施しているが、情報が分散しているため、情報を一元化してほしい。

【委員】

- 「すくすくメモリーズ」にて一括で見られるようになっている認識であるが、現在も利用可能なのか。

【事務局】

- アプリ自体は機能しており、情報発信している認識である。

【委員】

- ファミリー・サポート・センター事業について、事業説明に「乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として」という文言があるが、小学生の見込量のみ示されている点について伺いたい。

【事務局】

- 小学生の見込量は「ファミリー・サポート・センター事業」で示しており、未就学児の見込量は「一時預かり事業、子育て短期支援事業（トワイライトステイ）、子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業）」で示している。

【委員】

- 新規事業「子育て世帯訪問支援事業」や「児童育成支援拠点事業」について、中学校は社会へ送り出す義務教育の最終段階であるものの、養育に課題があり中学校卒業後にも問題を起こしてしまう生徒がごくわずかにいる状況である。中学校の教育現場として家庭への支援や子どもへの支援は必要であると考えため、検討・調整中となっているものは、ぜひ今後検討を進めてほしい。

【委員】

- 近隣の施設に子どもを預けたくても預けられないという家庭は、学校から真逆方向にある場所の施設で子どもを預けなければならない場合もある。事故や事件も多くみられるため、子どもを近隣の施設に預けられるよう、余裕のある事業を進めてもらいたい。

【事務局】

「(仮称) 甲府市子ども計画」評価指標について、事務局より説明。

【委員】

- 提示された評価指標に加えて、幼少期の子どもを持つ保護者に、自分の子どもに愛着形成ができたかという点についての項目があると、より良いと考えている。親だけでなく、子どもに良い影響を与えているのかという点を考慮してもらいたい。
- 評価指標案『「子育てについて、常に悩みがある」、「子育てについて、時々悩むことがある」と回答する保護者の割合の減少』の目標値案が70%以下となっているが、50%以下にする等の大きく減らすような目標を立てても良いのではないか。目標値が計画推進の力になりうるため、現実的な数値だけでなく理想的な数値を設定していくべきと考える。

【会長】

- 幼少期の子どもを持つ保護者に確認していく、具体的な項目案があれば教えてもらいたい。

【委員】

- 具体的には、子どもが自己肯定感や愛着を感じられるように親が子育てできている実感があるかという項目や、子どもを育てるにあたって親が社会に支えられている実感が持てているかという項目などが考えられる。

#### 【事務局】

- いただいた指摘を踏まえ、評価指標に追加できる要素がないか再度検討する。その際、過去に実施したアンケート項目に指標となる項目が無い場合は、現状値が取れず、目標設定ができないため、指標として定義することは見送ることとする。
- 見送った項目については、来年度以降、計画とは別にアンケートに項目を追加して追跡調査を実施し、令和12年度以降の計画に反映させていくのも一案と考えている。
- 悩みを持つことは誰しもあるため、悩みをもつ人を減らすのではなく、悩みを相談できる場所を知っている人を増やすことも必要と考えている。

#### 【委員】

- 悩みを持つことは誰しもあるという考えならば、そもそも『「子育てについて、常に悩みがある」、「子育てについて、時々悩むことがある」と回答する保護者の割合の減少』という評価指標を設定すべきなのか、再考の余地がある認識である。「悩み」よりも「不安」とするのも一案である。評価指標は今後再検討してほしい。

#### 【委員】

- 悩みを持つことは誰しもあるという点について同感である。言い回しによって言葉の印象は異なってくるため、「悩みや不安があっても、自身の力や周りの力を借りながら乗り越えられると思う保護者の割合」とするのも一案である。

#### 【事務局】

- いただいたご意見を踏まえて、評価指標について再検討したい。

#### (2) その他

※特になし。

#### 4. 計画部会閉会